

ハワイのワイキキビーチからダイヤモンドヘッドを越えて行くと、楽園ハワイのなかでも天国といわれる Lanikai beach があるという。「山のあなたの空遠く幸い住むと人の言う」国があるというのだ。ハワイ語で Lani とは天国、kai は海で「天国の海」なのだそうだ。

私はダイヤモンドヘッドを越えて「天国の海」に行ったことはないが、ダイヤモンドヘッドの手前にある「天国に一番近い」ゴルフ場でプレーした夢のような記憶がよみがえってきた。Waialae golf course は青木功ハワイアンオープンでバンカーからのチップインイーグルを決めて優勝したコースである。

Waialae はハワイの名門プライベート・コースで、ハワイの有力企業のトップがほとんどメンバーになっている。クラブハウスは社交場になっていて、メンバーの娘や息子の結婚披露パーティーにも使われているらしい。クラブハウスにはメンバーの写真が並べられていたが、面白いことを発見した。本土からきた白人系のメンバーは、やや斜に構えてにこやかに笑っているが、日系のメンバーはみんな正面を向いて真面目な顔をしている。

私はたまたまハワイの日系テレビ局の社長の招待でゴルフを楽しんだ。ダブルボギーばかりで、イーグルなどは夢のまた夢であったが、天国でプレーした気分であった。

ハワイの日常語は英語だが、いたるところにハワイ語が残っている。ホテルや公共施設のトイレには Kane とか Wahine という表示がみられることがある。Kane は男性用、Wahine は女性用だが、ハワイ語を知らなくても大丈夫である。トランプの King と Queen の絵がついているから間違えることはない。

自動車のナンバープレートには ALOHA STATE と書いてある。お役所の仕事にも粋なはからいがみられる。Aloha はハワイのシンボルで、出会いのときも Aloha、別れのときも Aloha である。Aloha 'e はハワイでもっともなじみ深い歌である。日本語の歌詞は替え歌になっているが、ハワイ語の原語は次のようなものである。

ALOHA 'OE	さようなら あなた
Ha aheo 'e ka ua i na pali	雨が誇らしげに 断崖を駆け抜け
Ke nihi a'ela i ka nahele	森の中を 通り抜けて行く
E uhai ana paha i ka liko	未だ開かない蕾を 探しているように
Pua 'ahini lehua o uka	山あいに咲く フレアの花よ
<i>Hui</i>	(コーラス)
Aloha 'oe, aloha 'oe	さようならあなた、さようならあなた

この歌はハワイ最後の女王リウオカラニ(Liliuokalani1838-1917)の作とされている。リウオカラニのラニは Lanikai beach の lani (天国) であろう。

ハワイ語には声門閉鎖音という音があって Aloha 'oe の (') がそれである。ドイツ語の Buch、Nacht の ch に近い無清音で、一拍おいて「アロハ□オエ」のように発音するのが正式である。Hawai'i (ハ□ワイ)、O'ahu (オ□アフ)、mu'mu (ム□ム) などには、この声門閉鎖音が使われている。

ハワイ語は l と r を区別しない。この点は日本語と同じである。ハワイ語の辞書を引いてみると A・E・H・I・K・L・N・M・O・P・U・W の 12 音だけで、B・C・D・F・G・J・Q・R・S・T・V・Z ではじまることばは一つもない。母音には長母音と短母音の区別があるが、日本語の五十音表でいえばア・カ・(サ)・(タ)・ナ・ハ・マ・(ヤ)・ラ・ワのうちサ行、タ行、ヤ行はないことになる。簡単でいいようだが、不便もある。

Aloha 'oe を直訳してみると次のようになる。

ALOHA 'OE

さようなら あなた

- Aloha の原義は「愛」である。Aloha 'oe の 'oe は 2 人称単数(あなた)である。Aloha 'oe は「愛をあなたに」ということになるが、別れのあいさつにも、会った時のあいさつにも使われる。
- ハワイ語の人称代名詞には単数と複数ばかりでなく、双数というものがある。1, 2, 3 以上という区別である。2 人称でいうと 'oe (単数)、'o-lus (双数)、'ou-kou (複数) ということになる。
- また、1 人称複数には包含形(あなた<話しかける相手>をふくむ「われわれ」と除外形(話しかける相手を含まない「私たち」)の区別がある。  
「私たち」には kā-ua (双数包含形)、mā-ua (双数除外形) と、kā-kou (複数包含形)、mā-kou (複数除外形) があることになる。

Ha aheo 'ē ka ua i na pali

○○ 誇り高く 遠く (定冠詞) 雨 (目的語マーカー) (前置詞 by) 断崖

- 最初の ha はハワイ大学出版部の New Pocket Hawaiian Dictionary に載っていないので不明だが、掛け声だろうか。
- aheo は「誇り高く」あるいは「気高く」にあたることばである。
- 冠詞は ka、ke、na、he、'o の 5 種類もあり、使い方がむずかしい。na は英語の前置詞 by にあたることばである。

Ke nihi a'ela i ka nahele

(動詞マーカー) 周縁 駆け上る (目的語マーカー) (定冠詞) 森・荒野

- ハワイ語の基本語順は動詞が先にきて「動詞+主語」である。

E uhai ana paha i ka liko

遠く 追い求める そこに おそらく (目的語マーカー) (定冠詞) 葉・蕾

Pua 'ahini lehua o uka  
花 白い (花の名前) ~に属する 内陸

- ハワイ語では形容詞は名詞の後にくることが多い。

*Hui*

一緒に (コーラス)

Aloha 'oe, aloha 'oe  
さようならあなた さようならあなた

ハワイアンソングには haole(白人)が来る前から伝えられた伝統的なものばかりでなく、ハワイの伝統的なメロディーを生かして、作られた曲もある。カイマナヒラ 20世紀に入ってからつくられたもので、近代的ハワイ音楽の父といわれるチャールズ・キングが作曲している。

「カイマナヒラ」の出だしは I waho makou i ka po nei だが I waho の i は目的語マーカであり、waho 「は外へ」である。ハワイ語では接頭語によって名詞になったり動詞になったりする。また、I waho を二つの単語ととらえるか、一つの単語の接頭辞と語幹ととらえるかは、人によって異なる。学校の授業ならば試験があるから、I-my-me とか you-your-you などのように格変化などを暗記しなければならないが、分からなかったそのたびに辞書を引けばよい。KAIMANHILA の大意はつぎのようになる。

Iwaho makou i ka po nei	夜外に出かけたら
'Ike i ka nani Kaimana Hila	美しいカイマナヒラを見た
Kaimana Hila kau mail luna	偉大なるカイマナヒラ
'Ike I ka nani Kaimana Hila	美しいカイマナヒラを見た

これを逐語訳してみるとハワイ語の構造がわかってくる。

I waho makou i ka  
(目的語マーカ) 外へ (1人称複数除外形) (目的語マーカ) (定冠詞)  
po nei  
夜 散策する

- i は目的語マーカで英語の in,on, at,to,toward などに相当する。

'Ike i ka nani Kaimana Hila  
見る (目的語マーカ) (定冠詞) 美しい カイマナヒラ  
Kaimana Hila kau mai luna  
カイマナヒラ ある (方向マーカ) 高くそびえる

- mai (話者の方向へ) は方向マーカであり、「話者から離れる方向へ」は aku を使う。

'Ike i ka nani Kaimana Hila  
見る (目的語マーカー) (定冠詞) 美しい カイマナヒラ

ハワイ語には借用語が多い。しかし、ハワイ語は子音の数が少ないから、Diamond Head が Kaimanahila になったように、外国語の音はしばしばハワイ語にある音に置き換えられる。

Mele Kalikimaka(Merry Christmas)、Kana Kaloka(Santa Claus)、Kapalakoko (San Francisco)、pūlumi(broom)、palaki(brush)、poloka(frog)、arimakika(arithmetic)、inka(ink),

借用語の音の転移にも規則性がある。

英語	⇒	ハワイ語
p,b,f		p
v,w		w
hw		hu
s,h,sh		h
l,r		l

日本語でも home がホームになり、platform もホームになる。Virus はウイルスになり、coffee はコーヒーになるのと似ている。調音の位置の近い音は転移する。例えば p と b は調音の位置が同じ（唇音）であり、p と f も調音の位置が近い。また、調音の方法が同じ音も転移しやすい。P と b は鼻音であり、s と sh はともに摩擦音であり、l と r は流音である。

人間は誰でもことばを話す。しかし、世界のことばは千差万別であり、地球上には5千を越えることばがあるという。声を発する仕組みは、ほとんどみな同じなのに、どうしてこのようにお互いに通じないことばがあるのだろうかと思議に思うこともある。ことばはそれぞれ複雑な規則をもっているが、アメリカの言語学者チョムスキーは「火星人からみれば、ことばは一つだ」といったそうである。どのことばを話す人も、みな自分の感情や思想をことばによって伝えることができるのだから、その仕組みは同じなのかも知れない。

私たちにとっては複雑すぎる文法の規則も、文法がむずかしすぎて母国語は覚えられないという人の話は聞いたことがない。

世界のことばの仕組みはどうなっているのか、人と人之間のことばによるコミュニケーションはどのようにして成り立っているのが、「世界ことば紀行」ではそれが知りたい。

次回は「チャモロ語＝グアム・サイパンのことば」